



山形大学  
Yamagata University

# 大学導入科目 『スタートアップセミナー』と 高大接続

山形大学 学術研究院  
千代 勝実(せんよかつみ)



# 本日の話題

---

- 山形大学の学士課程教育改革
- 基盤力テスト(必要な部分だけを簡単に)
  - <https://ir.yamagata-u.ac.jp/>  
→APシンポジウム(2017.9.21) に詳細データあります
- スタートアップセミナー(高大接続と内部質保証)
- まとめ・将来の展望

# 山形大学の学士課程教育改革

---

# 山形大学の学士課程教育改革：総論

- P • 3年一貫学士課程基盤教育による全学DPの実質化と学長主導の教学マネジメント
- D • 3つの基盤力(専門技能・キーコンピテンシー・国際語学力)の定義と育成
- C • 直接指標による教育評価(3年3回3種の基盤力テスト、授業外学修時間測定、ポートフォリオ等)
- A • 教学IRによる直接指標の評価検証と改善案提示
- A • 山形大学アライアンスネットワーク:ステークホルダー(地域・企業・教育委・保護者)による教育評価と参加

# 山形大学の学士課程教育改革：AP事業

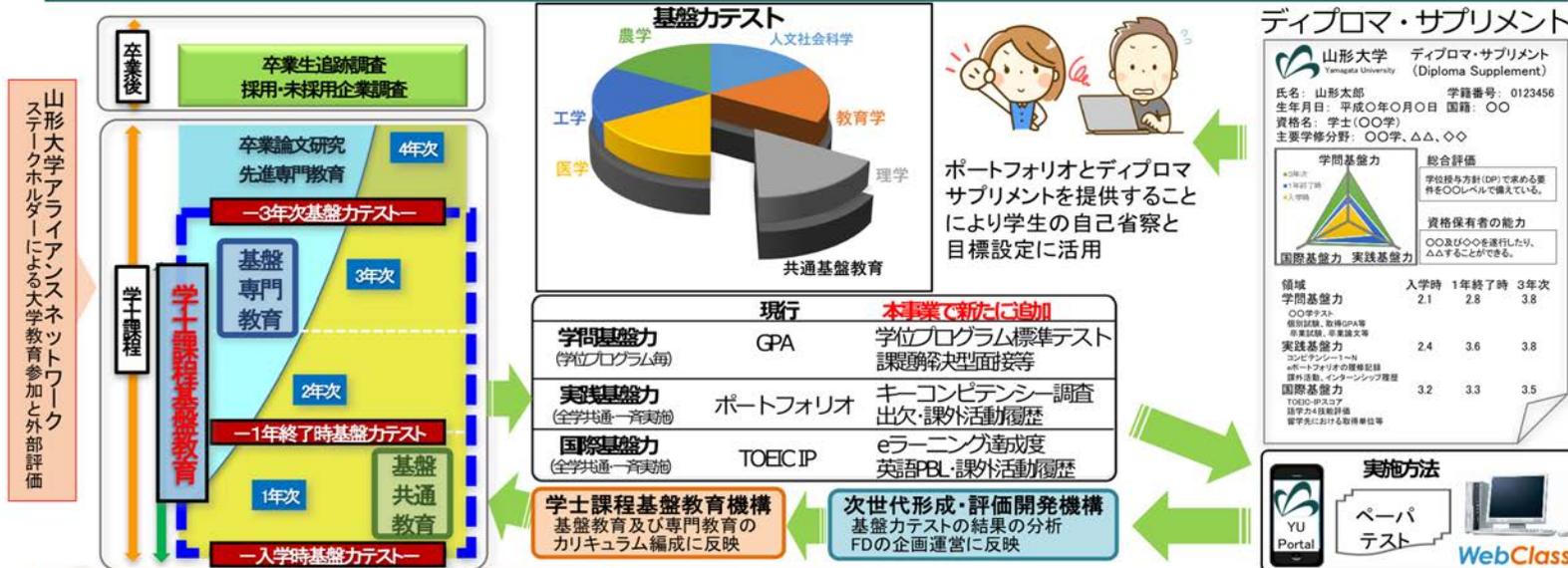
平成28年度「大学教育再生加速プログラム」選定取組



大学等名：山形大学

テーマ：テーマV（卒業時における質保証の取組の強化）

全学横断の基盤力テスト及び山形大学アライアンスネットワークによるステークホルダー外部評価を通じた卒業時の質保証  
 学修達成度を3年3回3種の基盤力テストで定量化、客観的な指標による教育の質保証とPDCAサイクルの実質化  
 地域企業・自治体・教育委員会・保護者からなる山形大学アライアンスネットワークを母体に教育改善アドバイザリーボードを形成

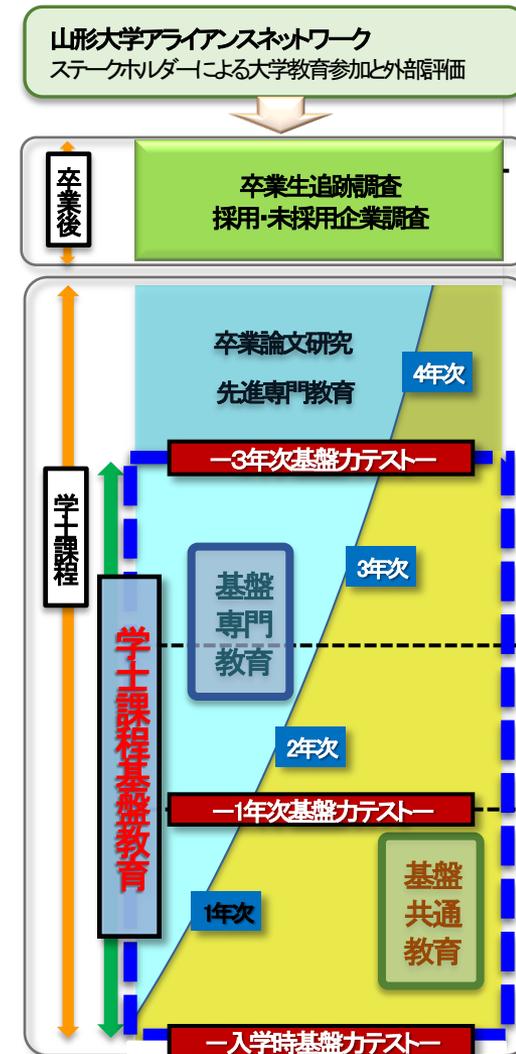


【事業の成果】	27年度 (実績値)	28年度 (目標値)	29年度 (目標値)	31年度 (目標値)
学生の授業外学修時間 (1週間当たり)	7時間	10時間	14時間	24時間
卒業生追跡調査の実施率 (調査回答者数/卒業者数)	7%	—	10%	15%
基盤力テストの実施率 (受験者/入学者数)	11%	86%	100%	100%

山形大学独自の基盤力テストの実施による直接評価をはじめとした教育指標の評価により教育改善を効率的に遂行  
 ステークホルダー(地域企業・自治体・教育委員会・保護者)によるアドバイザリーボードが大学教育の評価と改善に積極的に関与  
 インターンシップやPBL、フィールドワーク等の実践型・課題解決型授業を通して、学生の主体的・協働的な学びを充実  
 学長主導の教学マネジメントによる全学統合的な3年一貫学士課程教育を実質化し、大学全体の教育パフォーマンスを向上

# 学士課程教育改革：3年一貫学生課程基盤教育

- 専門教育と共通教育を再構築
  - 基盤共通教育  
全学学位授与方針(DP)の実現  
全学として教育の質保証  
大学導入科目・基幹科目・キャリア・語学等
  - 基盤専門教育  
学位プログラムDPの実現  
カリキュラム・コースの全学最適化と学修効果の最大化  
専門教育科目・学部横断科目



# 3つの基盤力の育成ー全学DPと関連した基盤力

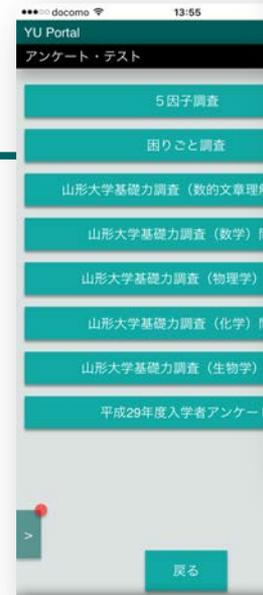
- 学問基盤力 ー 自律的に課題に取り組む専門力  
専門知識の体系的習得と実践的な運用体験  
総合大学の学際**の強みを生かした応用力の獲得**
- 実践地域基盤力 ー 社会でリーダーシップを発揮する人間力  
力強い学びを保証するキーコンピテンシーの育成  
地域課題に挑戦し生涯学び続ける自己学習力獲得
- 国際基盤力 ー 実践的な英語で多様性に挑戦する国際力  
基盤としての英語力を4技能・専門別に習得  
英語PBLの実施、様々な活動を通じた国際理解

# 1年次（基盤共通教育）

---

- 導入科目
  - **スタートアップセミナー**（2単位必修、アクティブラーニング AL）
- 基幹科目
  - 山形から考える（クラス定員の約半数がフィールドワーク）、人間と共生を考える（山形と人間共生で4単位必修 AL）
- 教養科目
  - 文化と社会、自然と科学、応用と学際
- 共通科目
  - コミュニケーションスキルI(英語)、II(初修外国語)、情報科学、健康・スポーツ、サイエンス・スキル、キャリアデザイン
- 補修科目・探求科目

# 基盤力テスト(概略)



# 基盤力テスト：直接指標と間接指標

---

- 直接指標（直接評価）
  - 改善点がはっきりする指標
    - 標準テスト（作成が難しい）
    - ルーブリック（norming—評価基準の標準化が難しい）
    - ポートフォリオ（分析が難しい）
- 間接指標（間接評価）
  - 改善点がはっきりしない指標
    - 各種アンケート
    - 学生調査
    - GP/GPA
- 山形大学では間接指標も利用しつつ直接指標へ

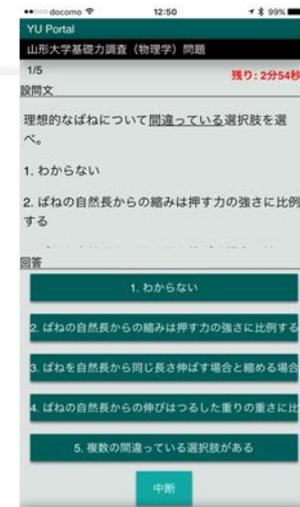
# 基盤力テスト：なぜ直接指標？基盤力テスト？

---

- カリキュラムマップは質を保証するわけではない
  - 枠組み・メニューであり自己点検の一部
- GP/GPS/GPAは間接評価指標
  - GP/GPAは学位プログラムの修正・授業担当者の変更・インセンティブによって容易に変動する
  - その授業時での評価で「大学環境」の教育能力とは異なる、卒業時に維持されているか不明
  - 暦年・学部/学科・大学間で比較不能
- ポートフォリオは整理が難しく分析が不可能
  - ポリシーを持って収集していても雑多な集積

# 基盤力テスト：実施項目

- 学問基盤力テスト(1年次)
  - 数的文章理解・数学・物理学・化学・生物学
- 実践地域基盤力テスト
  - 5因子調査(入学当初)
  - 出欠状況・ポートフォリオ(現存)
  - フィールドワーク・インターンシップ
- 国際基盤力テスト
  - TOEIC(現在2回実施)
  - eラーニング、留学等国際関係活動実績



# 基盤力テスト：実践基盤力とキーコンピテンシー

- 学位プログラムで必要とされるキーコンピテンシーは異なる
    - 既存の枠組みを疑い現場で臨機応変に課題解決する：  
ベンチャー企業の社長：○ 外科医：×
  - TPOに応じて必要とされるキーコンピテンシーは異なる
    - 全ての行動で全てのパラメータが最大な人は暑苦しい
    - 必要な時に必要な行動特性を示す「適応」を指導
  - より基本的な性格・習慣の測定(5因子調査)を導入
    - 心理学的・科学的に確立されている
    - 外向性・協調性・勤勉性・情緒安定性・知的好奇心
- 主要5因子性格検査ハンドブック :村上宣寛、村上千恵子

# 基盤カテストで測れない授業外学修時間の測定

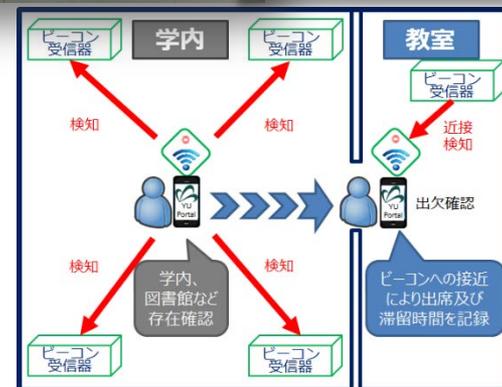
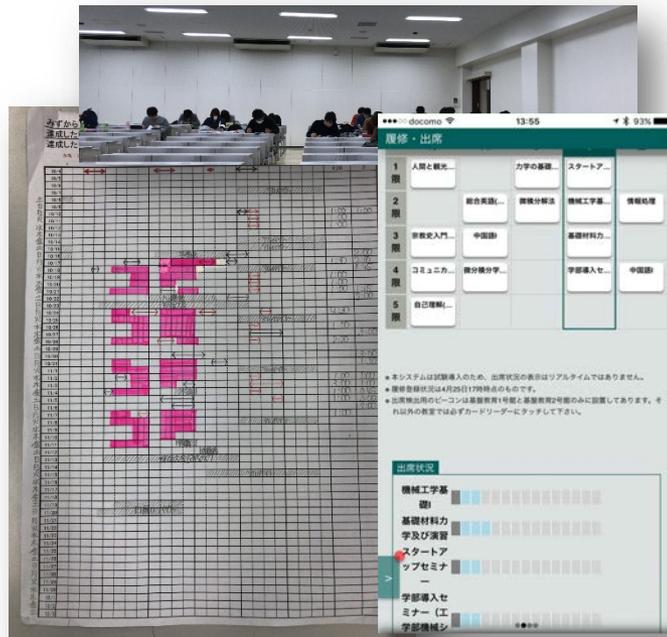
## • 現行

- 学修成果等アンケートでの質問
- eラーニング
- 学修日記(みずから学ぶ)

## • 計画

- スマホアプリでの入退室管理(教室・学内・図書館等)
- モニター学生による記録

学生ポータルアプリ・基盤カテストプラットフォーム・ビーコン(BLE)による入退室管理・学生スケジューラはTIM(タイムインターメディア)さんに開発していただきました。感謝！



# 実践地域基盤力とスタートアップセミナーとIR

## ■ 収集データ

### 1. キーコンピテンシー調査

(5因子調査; Big Five Personality Test)

- 外交性 (Extraversion)
- 協調性 (Agreeableness)
- 勤勉性 (Conscientiousness)
- 情緒安定性 (Neuroticism)
- 知的好奇心 (Openness to experience)

### 2. 出欠・課外活動履歴

- ICリーダー and/or ビーコンシステムによる出欠情報の収集
- 後で、2つの調査とスタートアップセミナーを比較

# 主要5因子性格検査のスコアと標準偏差

5因子	山形大学*		岩手大学**	
	Mean	Std. Dev.	Mean	Std. Dev.
E : 外向性	46.0	10.5	48.5	10.1
A : 協調性	52.0	8.7	51.4	9.4
C : 勤勉性	54.5	9.5	53.5	9.5
N : 情緒安定性	47.6	9.7	47.4	9.3
O : 知的好奇心	49.4	9.7	50.2	9.9

\* 条件を満たす2017年度入学生 ( $N = 1,691$ )

\*\* 鈴木・阿久津(2007)によって収集されたデータ(2005年,  $N = 215$ )

# スタートアップセミナー



# スタートアップセミナー：これまでの課題

---

- 大学の講義の最大の課題  
個々の講義の独立性が高すぎる(共時的・経時的)
  - 授業内容が他の教員に共有されない
  - 最初に授業を担当すると一からつくる必要がある
  - ある授業の成績基準が他の授業と異なる
  - ある授業の教育内容を別の授業で積極的に使えない
  - 授業改善が別の教員に伝わらない
  - 共同で教育改善する意識が醸成されない
- **スタートアップセミナー(必修)**と情報リテラシー(ほぼ必修)から教育内容・課題・採点基準を厳密に統一化

# スタートアップセミナー：コンセプト

---

- 大学生として必要な学習スキルの向上を図ることを目的とした大学導入科目(1年前期全学生必修)
- 基本的な学習スキル: 調査や情報収集、議論、口頭発表、レポート作成の能力、etc
- 統一課題(前半は倫理・後半はキャリア)に従って  
**2サイクル(8回+7回)**同じ活動を繰り返す
  - 失敗と改善による成功体験
- クラス編成(H29:35名49クラス、H30～:25名、5班)
  - **学部・性別をバランス良く混在**、月火木金1コマ目
- 学部を超えた学びのコミュニティと学びの文化醸成
- 授業指導・課題・評価基準は完全に統一

# スタートアップセミナー：LMSの利用

〇〇試験監督要領のように読むだけでよい講義要領も配布

WebClass 78106 スタートアップセミナー (2017) 千代勝実 管理

教材 - 成績 - 出席 - その他 - メンバー - コース管理 - 学生としてログインする

タイムライン

教材一覧

- 会堂
- プレゼンテーションファイル追加
- 資料
- グループ分け
- シラバスの訂正について
- レポートの作成基本
- 授業計画 (前編) +グループワーク
- 授業資料
- 第1回配布物
- 第2回配布物
- 第3回配布物
- 第4回配布物
- 第4回配布物 (追加テンプレート)
- 第5回配布物
- 第6回配布物 + (リハール評価シート※、プレゼンテーション評価シート※)
- 第7回配布物
- 第8回授業クラス分け一覧
- 第10回配布物
- 第11回配布物
- 第12回配布物
- 第12回配布物 (追加テンプレート)
- 第13回配布物 + (リハール評価シート※、プレゼンテーション評価シート※)
- 第14回配布物
- テストアンケート

資料

- 7/26授業活動
- 講義①：資料課題・要約作成
- 講義②：グループワークのまとめ
- 講義③：グループワークのまとめ (課題研究)
- 講義④：課題での調査方法を整理してみよう
- 講義⑤：プレゼンテーション設計書の作成
- 講義⑥：リハールを踏まえたプレゼンテーションの改善
- 講義⑦：グループワークのまとめ
- 講義⑧：グループワークのまとめ (課題研究)
- 講義⑨：課題での調査方法を整理してみよう
- 講義⑩：プレゼンテーション設計書の作成
- 講義⑪：リハールを踏まえたプレゼンテーションの改善
- 講義⑫：グループワークのまとめ
- 講義⑬：グループワークのまとめ (課題研究)
- 講義⑭：課題での調査方法を整理してみよう
- 講義⑮：プレゼンテーション設計書の作成
- 講義⑯：リハールを踏まえたプレゼンテーションの改善
- 講義⑰：グループワークのまとめ
- 講義⑱：グループワークのまとめ (課題研究)
- 講義⑲：課題での調査方法を整理してみよう
- 講義⑳：プレゼンテーション設計書の作成
- 講義㉑：リハールを踏まえたプレゼンテーションの改善
- 講義㉒：グループワークのまとめ
- 講義㉓：グループワークのまとめ (課題研究)
- 講義㉔：課題での調査方法を整理してみよう
- 講義㉕：プレゼンテーション設計書の作成
- 講義㉖：リハールを踏まえたプレゼンテーションの改善
- 講義㉗：グループワークのまとめ
- 講義㉘：グループワークのまとめ (課題研究)
- 講義㉙：課題での調査方法を整理してみよう
- 講義㉚：プレゼンテーション設計書の作成
- 講義㉛：リハールを踏まえたプレゼンテーションの改善
- 講義㉜：グループワークのまとめ
- 講義㉝：グループワークのまとめ (課題研究)
- 講義㉞：課題での調査方法を整理してみよう
- 講義㉟：プレゼンテーション設計書の作成
- 講義㊱：リハールを踏まえたプレゼンテーションの改善
- 講義㊲：グループワークのまとめ
- 講義㊳：グループワークのまとめ (課題研究)
- 講義㊴：課題での調査方法を整理してみよう
- 講義㊵：プレゼンテーション設計書の作成
- 講義㊶：リハールを踏まえたプレゼンテーションの改善
- 講義㊷：グループワークのまとめ
- 講義㊸：グループワークのまとめ (課題研究)
- 講義㊹：課題での調査方法を整理してみよう
- 講義㊺：プレゼンテーション設計書の作成
- 講義㊻：リハールを踏まえたプレゼンテーションの改善
- 講義㊼：グループワークのまとめ
- 講義㊽：グループワークのまとめ (課題研究)
- 講義㊾：課題での調査方法を整理してみよう
- 講義㊿：プレゼンテーション設計書の作成
- 講義㊿：振り返りと今後の学び

タイトル	ページ番号	ページ移動	
第1節 第1回(4/10)	1	1	添付資料
第2節 第2回(4/17)	2	2	添付資料
第3節 第3回(4/24)	3	3	添付資料
第4節 第4回(5/1)	4	4	添付資料
第5節 第5回(5/8)	5	5	添付資料
第6節 第7回(5/22)	6	6	添付資料
第7節 第8回(6/5)	7	7	添付資料
第8節 第10回(6/19)	8	8	添付資料
第9節 第11回(6/26)	9	9	添付資料
第10節 第12回(7/3)	10	10	添付資料
第11節 第13回(7/10)	11	11	添付資料
第12節 第14回(7/24)	12	12	添付資料
第13節 第15回(7/31)	13	13	添付資料

PDF ファイルの表示に問題があるときは [別ウインドウ](#) で開いてください。

## 解説：「4つの技術」と「4つの活動」の間

### 大学生に必要な4つの技術

学びの型

- 情報収集
- グループ協働
- 学問的思考
- 文書作成

レポート

プレゼンテーション

WebClass 78106 スタートアップセミナー (2017) 千代勝実 管理

教材 - 成績 - 出席 - その他 - メンバー - コース管理 - 学生としてログインする

### 課題①：グループワークのまとめ

種類：テスト/アンケート：レポート

公開状況 学生成績 問題ごとの成績表示/再採点 利用状況 学習履歴 オプション 編集

説明

教員の提示した論題に対し、ワークシート①を用いてグループでのブレインストーミングを行い、様々な立場や考え方について議論を展開する。その後、ブレインストーミングで展開した様々な立場や考え方について、それぞれの立場や考え方の主張の根拠となる文献・資料を手分けして探し、来週の授業に持って来るための役割分担を行う。この時一人一人が「自分はどこでどうやってどのような資料を探して来る」という出来るだけ具体的な計画を立てる。授業終了後、ワークシート①の内容（コピーや誰かが清書したファイルを作ったり携帯で写真を取るなどして共有する）を元に今日のブレインストーミングでどんなことを話し合ったかをまとめ、その中から自分が担当することになった文献・資料調査についての具体的な計画とともにWebclassの課題①の場所に記入して提出する。200字以上400字以内。原則その日のうちに提出。（※切迫03:00）（※立てた計画に基づき実際に調査に赴き、見つけた資料を来週持って来る）。

学生の利用状況

現在実行中 0 / 35

1回以上実行した学生数33 / 35

教材実行

開始

公開URL

https://ecsy/lms1.kj.yamagata-u.ac.jp/ws/login.php?id=02a1d90f247b23e3cbb2c2fe280&page=1

公開状況

アクセス制限 コースメニューで表示する

日時制限 2017/06/19 00:00 ~ 2017/06/20 03:00

実行回数制限

# スタートアップセミナー：効果

---

- 全て同じ教育内容で進度もそろろう
  - スタセミ以外の授業と相互作用(アクティブラーニングや情報リテラシーなど「スタセミでやったように」で通じる)
  - 2サイクルで学生自身が自省・省察し改善できる
- 担当教員同士の相互作用が大幅に高まる
  - 教務課前で活発な議論や実践について情報交換
- 新任教員を含め実践的な集団FDの場
  - 初めての授業担当でも楽に準備でき、すぐうまくなる
  - 教育改善がすぐに伝搬する(月曜の改善が火で実現)
- 全学で統計的IR的手法で改善できる
  - 出欠・基盤力テストや解答の分析

# スタートアップセミナー：成績

## ■ 5段階評価：S, A, B, C or F

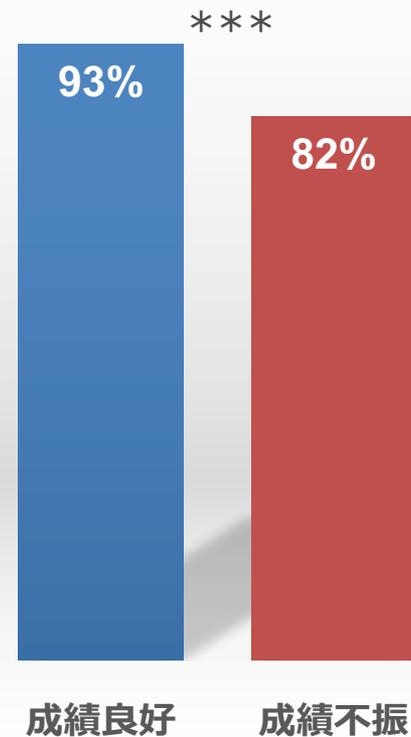
➤ スタートアップセミナーは、以下の条件を満たせば「A以上」の成績が取れるようデザインされている。

1. 課題を期限までに提出
2. 明記されている評価基準を満たす



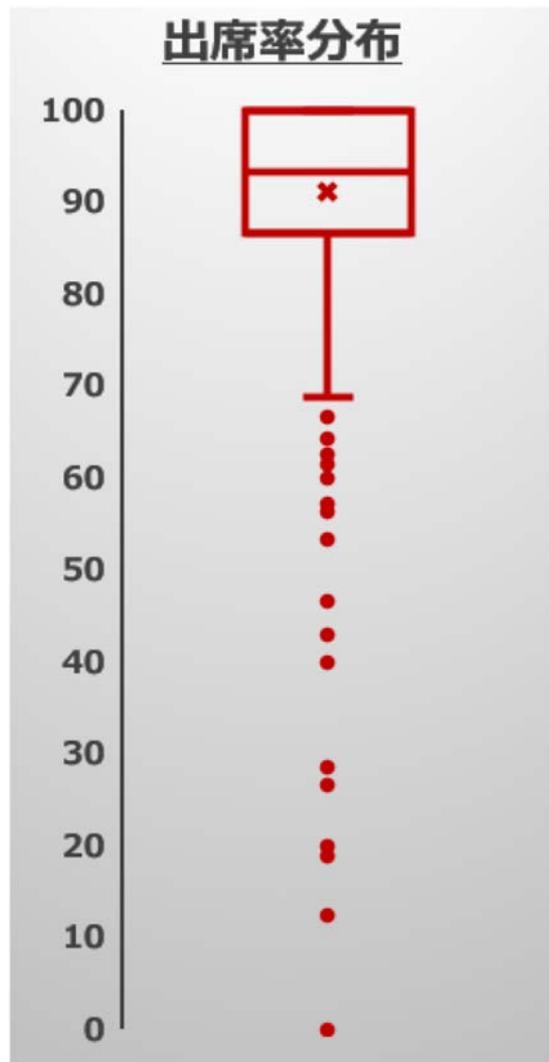
成績群	Freq.	Percent
成績良好 (S or A)	1,427	84.4
成績不振 (B, C or F)	264	15.6
Total	1,691	100.0

## 出席率比較

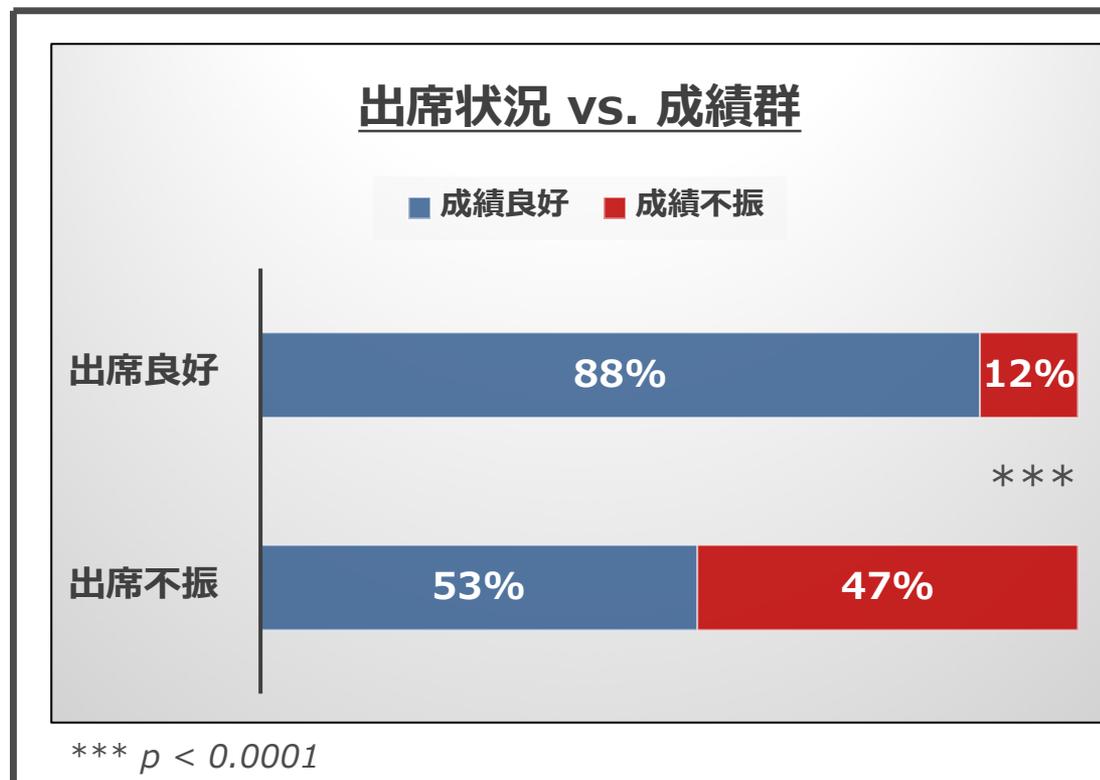


\*\*\*  $p < 0.0001$

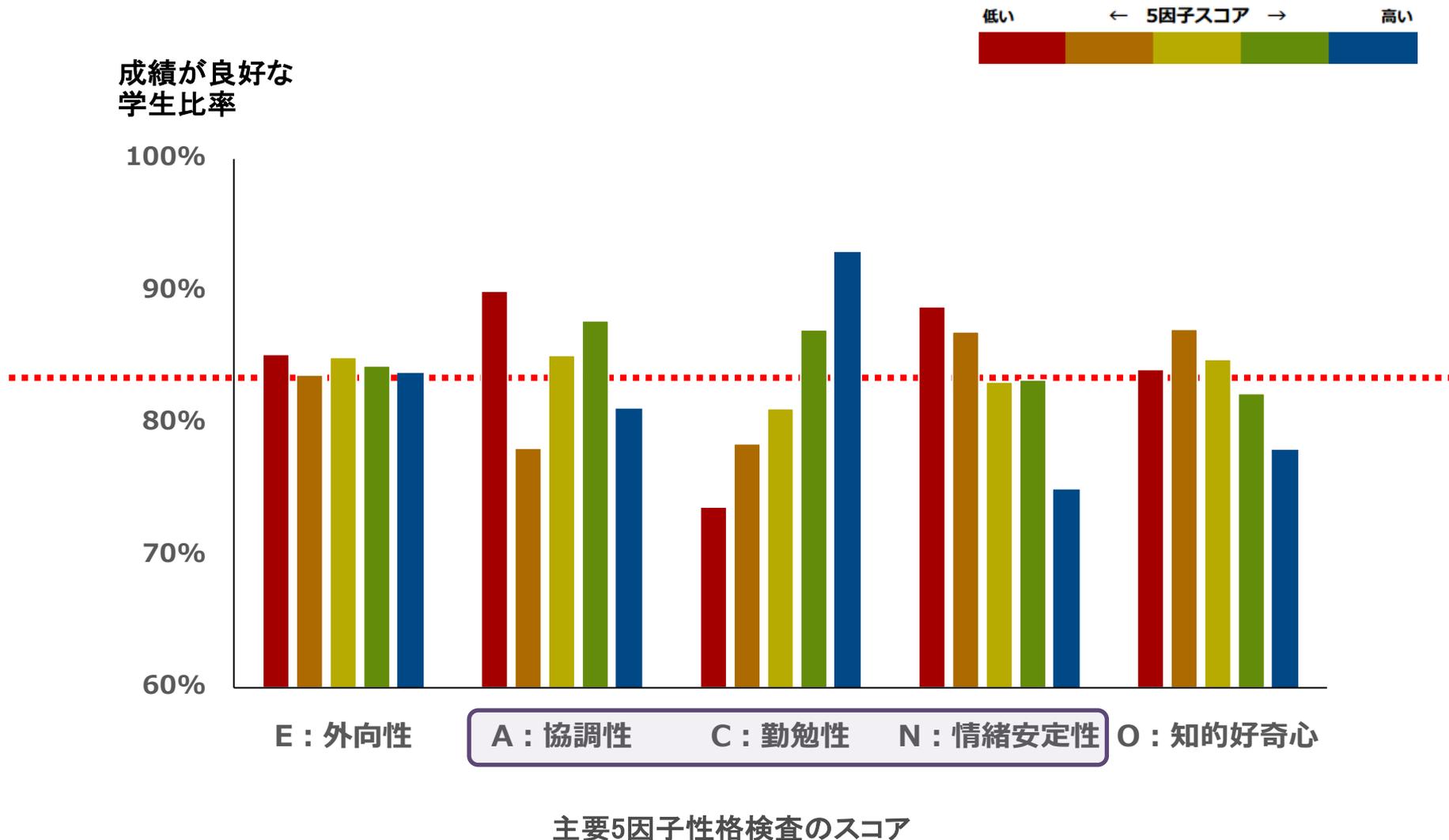
# 出席状況：スタートアップセミナー



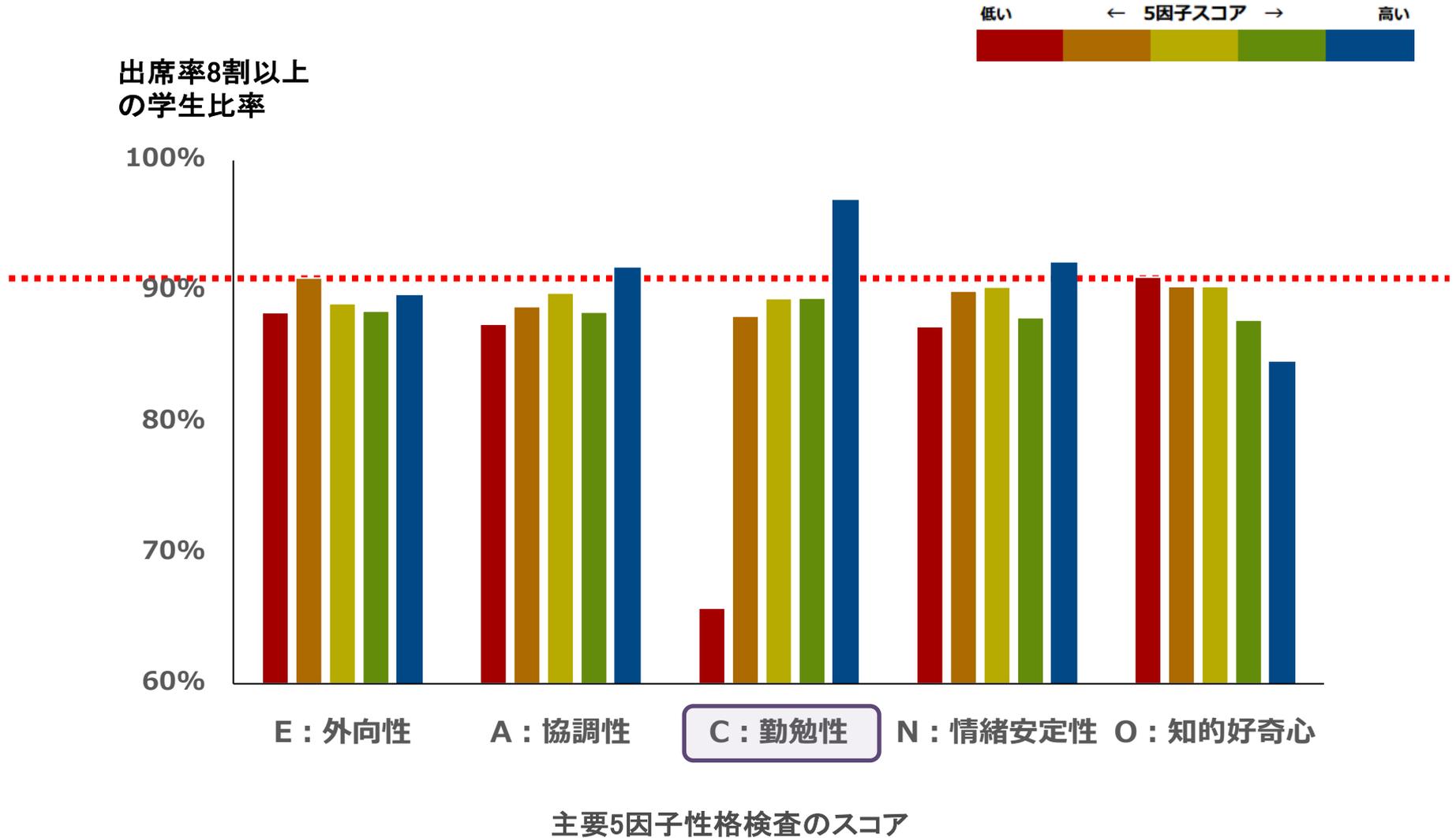
出席状況	Freq.	Percent
出席良好 (80%以上)	1,515	90.0
出席不振 (80%未満)	176	10.0
<b>Total</b>	<b>1,691</b>	<b>100.0</b>



# 5因子スコアとスタートアップセミナーの成績



# 5因子スコアとスタートアップセミナーの出席状況



# 学生の学修に対する抱負プレ・ポスト比較

tentative

- セミナー1回目と15回目に記載させる
- 課題発見力・解決力・計画力に関連?
- ポストではかなり具体的に省察できるようになる

プレ

ポスト

ID	学部	学科	コース他	性別	課題②	課題①
1	地域教育文化学部	地域教育文化学科	児童教育コース	F	私は専門的な知識を身に付けたいと思っています。私は、生誕一周年前に英語を教える先生になるという夢があります。現在、小学校では2020年度までに英語が必修科目となり、社会的にも英語が重要なものであるとはっけてきました。そのような社会の中では、初めて英語に触って、苦手意識を持ち、ずっと英語が苦手科目になるような生徒がおそらく出るだろうと考えています。そのため、苦手意識を持つような生徒を少しでも減らしたいと思、私は英語に専門的な知識をもった小学校の先生になりたいと思います。そのためには英語の単語や文法ももちろん、実際に英語を使って生きる人々との交流も必要です。なので私は卒業までにTOEIC700点を取り、留学し現地の人と交流することを達成しようと考えています。	私は課題②で英語に関する専門的な知識を身に付けたいと記したが、今の所専門的な知識は身に付けていない。しかし、留学の計画は着々と立てることができています。私は卒業後、アメリカのナショナルスクールで日本語を教える教員の手伝いをし、アメリカに一年間ほどの留学をすることになった。そのため、これからは卒業後の留学に焦点を当て、英語の知識を増やしていこうと思っている。大学一年生の半分を過ごして感じたことは、大学は忙しいということだ。高校生の頃は言われた通りの時間割をこなしていれば必要な単位は取れたが、今では全てが自分の責任となり、下手すれば卒業ができなくなる。そうならないために試行錯誤し、課題をやり、自由に使うお金のためにアルバイトをしてしまえば時間などすぐに過ぎてしまう。前期は慣れなかつたこともあり、上手に過ごせていなかったのですが、後期は有意義に過ごせるよう落ち着いて毎日過ごしたい。
2	医学部	医学科		M	私は医学部医学科に所属しているため、大学二年生になれば、幅広く専門的な医学の道に進む。そのため、大学一年生という限られた時間で、社会に出て生きていくための、協調性とコミュニケーション能力について学修し体得していきたい。協調性とコミュニケーション能力の体得にあたっては、スタートアップセミナーの課題に積極的に取り組み、同じグループのメンバーと能動的に協力し合うことの積み重ねが重要だと思。また、この一年で、私は接客業を主とするアルバイトに挑戦し、自力でお金を稼ぐことを達成したい。アルバイトにおいても協調性とコミュニケーション能力は不可欠であり、スタートアップセミナーでの経験を有効利用したい。	課題②において、私は豊富として、協調性とコミュニケーション能力の体得、自らお金を稼ぐ経験を、という二つの抱負を記した。前者は、私が学部の総代を経験したり、様々な学習の中で他人と協力して作業する中で、ある程度は身についたと思う。後者は、夏休みに達成したいと考えている。大学生となってからの前半の半年を過ごした今感じること、は自分の無知さと持っている可能性の幅の広さである。大学生活の中で自分も多くの人と交わり、多くの意見を吸収することで、どんな境遇の人にも親身に接することができる医師となることを、将来は達成したいと思っている。
3	工学部	高分子・有機材料工学科		F	私は大学で、2つのことについて勉強し達成したいと考えています。1つ目は2年次から専門科目が増えると思うので、今のうちに社会に出てからも通用する人間になるための教養を身に付けたいと考えています。1年次の特に前期は教養科目がとも多いため今のうちから教養を深めることが社会に出てからも役に立たない人間になることへの一歩になると思。2つ目は一番大切な専門科目の勉強を怠らないこと。専門科目は高分子や有機材料について研究する上で欠かせないものとなるので、研究について本末転倒しないように1年次から特に重要視して学んで行きたいです。	課題②で書いた抱負の達成度は7割くらいと考えています。理由としては各時間でのグループワーク、プレゼン発表に向けた取り組みなどはしっかりできてきたが、後半のほうから必要なプリントの印刷を忘れてしまったりとだらけてしまったかと思。1年次の点数は思ったより高かった。大学生活半年を過ぎて、工学部としての専門科目などはもちろん、大学でしか学ぶことのできないプレゼン力であったり、与えられた課題に対して自分で解決する力を身に付けていきたいと思。また、
4	工学部	高分子・有機材料工学科		M	私は、専門教育科目力を入れたいと考えています。ただ単位を取得するために講義を受けるのではなく、2年次以降の基礎となるので授業外学習にも力を入れ、疑問点を放置せず積極的に質問に行くことで穴を作らないようにすることで基礎力の定着の達成を考えています。また、プレゼンテーションやグループワークを通じて人見知りや消極性の改善、社会に出ても盛り合えるようなコミュニケーション能力や人前で発表し伝える能力を身に付け、向上させたいと思。僕は大学一年生の授業を通して、「自分の意見をわかりやすく伝える能力」を磨いて獲得していきたい。大学を卒業した後の社会に出てからは他人と協力して仕事をすることになり、自分の意見を他人と共有していくことが必要になる。基礎共通教育の授業では、グループワーク形式の授業が多い。他人と共同で課題に取り組みたいという自分の意見をグループ内で共有していかなければならない。どれだけわかりやすく伝えられるかということが大切になってくる。僕は大学一年生の内にこの能力をできるだけ高められるように日々頑張っていきたい。そして二年次までには自分の意見をどんどんと共有できる人間になりたい。	私は、課題②で書いた課題のうちグループワークによる消極性の改善やプレゼンテーションを通して人前で話す能力が身に付いたと感じた。また、半年経過して高校の時とは自分で学習するという点で大きな違いを感じた。これからの4年間で、専門科目を中心にほかの科目も履修することでより知識を深めたいと考えている。今の段階では夢や将来やりたいことが特にない。これからの大学生活の中で見つけていきたいと思。
5	工学部	高分子・有機材料工学科		M	僕は大学一年生の授業を通して、「自分の意見をわかりやすく伝える能力」を磨いて獲得していきたい。大学を卒業した後の社会に出てからは他人と協力して仕事をすることになり、自分の意見を他人と共有していくことが必要になる。基礎共通教育の授業では、グループワーク形式の授業が多い。他人と共同で課題に取り組みたいという自分の意見をグループ内で共有していかなければならない。どれだけわかりやすく伝えられるかということが大切になってくる。僕は大学一年生の内にこの能力をできるだけ高められるように日々頑張っていきたい。そして二年次までには自分の意見をどんどんと共有できる人間になりたい。	僕は課題②で自分の意見を他人にわかりやすく伝えること、能力を高めたいと書いた。前期の授業では、スタゼミをはじめとしてコミュニケーション能力を高める授業をいくつか受けた。それらを受けて、僕的には意見を自分なりにわかりやすく、時にはかみ砕いて説明することができるようになった。残り3年以上ある大学生活では、いろいろな専門科目を履修し、就職したときに自分が納得できる結果を得られるように頑張っていきたいと思。いまいまだ自分の将来についてぼんやりとしているので、しっかりと方向性を見定められる様に残りの学生生活を歩んでいこうと思。
6	農学部	食料生命環境学科		F	大学一年生の今、私が将来の目標としていることは、農学系の公務員になって地元の農業に貢献することです。そのために、農業関係の知識を学習して身に付けることはもちろんですが、まずは問題をを見つけ、それを解決する視点や考え方を広げたいと思っています。そのために、このスタートアップセミナーで、他学部の学生の人々と交流しながら積極的に発言・意見交換を行い、物事を多角的に見て本質を見抜き、的確な行動を起こせる人間になることが現在の目標であり、達成したいです。	問題をを見つけ、それを解決する視点や考え方を広げたい、積極的に発言・意見交換を行い、物事を多角的に見て本質を見抜き、的確な行動を起こせる人間になりたい。これが私が大学に入学した時点で持っていた抱負である。完璧に達成したというにはまだまだだとは思。入学時に比べた能力として伸びたと思。



# まとめと展望

---

- 全学の学士課程教育をDPのもと統合的に実施し始めた
- 大学教育の質を担保するための直接評価指標として基盤力テストを導入・平成29年度から本格実施し、学生のリフレクションとIR、教育改善に使い始めた
- スタートアップセミナーをはじめ、効果的・効率的な教育を系統的に実施し始めた
- 今後の展望
  - 質保証を意識した教育改善のPDCAサイクル(Closing the loop)
  - 教育改善に外部ステークホルダーと協働
  - 直接評価指標に関する啓蒙